雀こ

井伏鱒二へ。津軽の言葉で。

太宰治

青空文庫

長え長え昔噺、知らへがな。
山の中に橡の木いっぽんあったずおん。
そのてっぺんさ、からす一羽来てとまったずおん。
からすあ、があて啼けば、橡の実あ、一つぼたんて落づるずおん。
また、からすあ、があて啼けば、橡の実あ、一つぼたんて落づるずおん。
また、からすあ、があて啼けば、橡の実あ、一つぼたんて落づるずおん。
……

ひとかたまりの童児、広い野はらに火三昧して遊びふけっていたずおん。春になればし、雪こ溶け、ふろいふろい雪の原のあちこちゆ、ふろ野の黄はだの色の芝生こさ青い新芽の萌えいで来るはで、おらの国のわらわ、黄はだの色の古し芝生こさ火をつけ、そればさ野火と申して遊ぶのだおん。そした案配こ、おたがい野火をし距て、わらわ、ふた組にわかれていたずおん。かたかたの五六人、声をしそろえて歌ったずおん。

――雀、雀、雀こ、欲うし。
ほかの方図のわらわ、それさ応え、
――どの雀、欲うし？
て歌ったとせえ。
そこでもってし、雀こ欲うして歌った方図のわらわ、打ち寄り、もめたずおん。
――誰をし貰ればええべがな？
――はにやすのヒサこと貰れば、どうだべ？
――鼻たれて、きたなきも。
――タキだば、ええねし。
――女くされ、おかしじゃよ。
――タキは、ええべせえ。
――そうだべがな。
そうした案配こ、とうとうタキこと貰るようにきまったずおん。
――右りのはずれの雀こ欲うし。
て、歌ったもんだずおん。
タキの方図では、心根っこわるくかかったとせえ。
――羽こ、ねえはで呉れらえね。
――羽こ呉れるはで飛んで来い。
こちで歌ったどもし、向うの方図で調子ばあわれに、また歌ったずおん。
――杉の木、火事で行かえない。
したどもし、こちの方図では、やたら欲しくて歌ったとせえ。
――その火事よけて飛んで来い。
向うの方図では、雀こ一羽はなしてよこしたずおん。タキは雀こ、ふたかたの腕こと翼みんたに拡げ、ぱお、ぱお、ぱお、て羽ばたきの音をし口でしゃべりしゃべりて、野火の焔よけて飛んで来たとせえ。

これ、おらの国の、わらわの遊びごとだおん。こうして一羽一羽と雀こ貰るんだどもし、おしめに一羽のこれば、その雀こ、こんど歌わねばなんねのだおん。

——雀、雀、雀こ欲うし。

とっくと分別しねでもわかることだどもし、これや、うたて遊びごとだまさね。一ばん先に欲しがられた雀こ、大幅(おおはば)こけるどもし、おしめの一羽は泣いても泣いても足(た)えへんでば。

いつでもタキは、一ばん先に欲しがられるのだずおん。いつでもマロサマは、おしめにのこされるのだずおん。

タキ、よろずよやの一人あねこで、うって勢よく育ったのだずおん。誰にかても負けたことねんだとせえ。冬、どした恐ろしない雪の日でも、くるめんば被(かぶ)らねで、千成(せんなり)の林檎(りんご)こよりも赤え頬ぺたこ吹きさらし、どこさでも行けたのだずおん。マロサマ、たかまどのお寺の坊主(ぼんず)こで、からだつきこ細くてかそぺないはでし、みんなみんな、やしめていたのだずおん。

さきほどよりし、マロサマ、着物ばはだけて、歌っていたずおん。

——雀、雀、雀こ欲うし。雀、雀、雀こ欲うし。

不憫(ふびん)げらに、これで二度も、売えのこりになっていたのだずおん。

——どの雀、欲うし？

——なかの雀こ欲うし。

タキこと欲しがるのだずおん。なかの雀このタキ、野火の黄色え黄色え焔ごしに、悪だまなくこでマロサマば睨(にら)めたずおん。

マロサマ、おっとらとした声こで、また歌ったずおん。

——なかの雀こ欲うし。

タキは、わらわさ、なにやらし、こちょこちょと言うつけたずおん。わらわ、それ聞き、にくらにくらて笑い笑い、歌ったのだずおん。

——羽こ、ねえはで呉れらえねえ。

——羽こ呉れるはで飛んで来い。

——杉の木、火事で行かえない。

——その火事よけて飛んで来い。

マロサマは、タキのぱおぱおて飛んで来るのば、とっけらとして待づていたずおん。したどもし、向うの方図で、ゆったらと歌るのだずおん。

——川こ大水で、行かえない。

マロサマ、首こかしげて、分別したずおん。なんて歌ったらええべがな、て打って分別して分別して、

——橋こ架けて飛んで来い。

タキは人魂(ひとだま)みんた眼(まなく)こおかなく燃やし、独りして歌ったずおん。

——橋こ流えて行かえない。

マロサマは、また首こかしげて分別したのだずおん。なかなか分別は出て来ねずおん。そのうちにし、声たてて泣いたのだずおん。泣き泣きしゃべったとせえ。

——あみださまや。

わらわ、みんなみんな、笑ったずおん。

——ぼんずの念仏、雨、降った。

——もくらもっけの泣けべっちょ。

——西くもて、雨ふった。雨ふって、雪とけた。

そのときにし、よろずよやのタキは、きずきずと叫びあげたとせえ。

——マロサマの愛(め)ごこや。わのこころこ知らずて、お念仏。あわれ、ばかくさいじゃよ。

そうしてし、雪だまにぎて、マロサマさぶつけたずおん。雪だま、

マロサマの右りの肩さ当り、ぱらら て白く砕けたずおん。マロサマ、どってんして、泣くのばやめてし、雪こ溶けかけた黄はだの色のふろ野ば、どんどん逃げていったとせえ。

そろそろと晩げになったずおん。野はら、暗くなり、寒くなったずおん。わらわ、めいめいの家さかえり、めいめい婆さまのこたつこさもぐり込んだずおん。いつもの晩げのごと、おなじ昔噺をし、聞くのだずおん。

長え長え昔噺、知らへがな。

山の中に橡の木いっぽんあったずおん。

そのてっぺんさ、からす一羽来てとまったずおん。

からすあ、があて啼けば、橡の実あ、一つぼたんて落づるずおん。

また、からすあ、があて啼けば、橡の実あ、一つぼたんて落づるずおん。

また、からすあ、があて啼けば、橡の実あ、一つぼたんて落づるずおん。

……

青空文庫情報

底本：「太宰治全集1」ちくま文庫、筑摩書房
　　1988（昭和63）年8月30日第1刷発行
底本の親本：「筑摩全集類聚版太宰治全集」筑摩書房
　　1975（昭和50）年6月～1976（昭和51）年6月
入力：柴田卓治
校正：丹羽倫子
1999年9月12日公開
2005年10月20日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

雀こ

井伏鱒二へ。津軽の言葉で。

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

著者　　太宰治
URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/